



台湾の半導体製造大手T S M Cの熊本進出でこれまで以上に台湾から多くの人たちが熊本を訪れるとみられています。

その台湾と日本の歴史的なつながりを知ってもらおうと益城町で先日、講演会がありました。

この講演会は日本が統治していた時代の台湾で子供たちの教育にあたった益城町出身志賀 哲太郎の顕彰会が開いたものです。

始めに顕彰会の宮本 睦士 会長が「T S M Cの熊本進出が決まり台湾との交流をさらに推進したい」と挨拶しました。

そして、東京工業大学の名誉教授で台湾の歴史や日本との関わりに詳しい『日本李登輝友の会』の渡辺利夫 会長が登壇。

『台湾と日本のかけはしとなった先人たち』と題し、台湾でダム建設などに尽力した石川県出身の八田與一の功績などについて話しました。

【志賀哲太郎顕彰会 宮本 睦士 会長】

「(T S M Cの)工場関係者とか家族の方たちがたくさん来られますので熊本県の皆さんがスムーズに交流できるような取り組みを顕彰会のできる範囲でできないかと考えています」